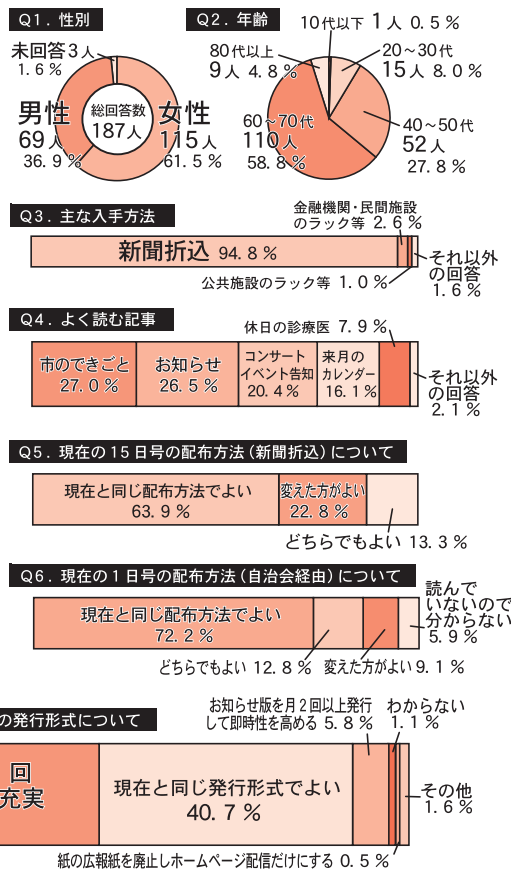


(左) 広報いずのくに 2月1日号 アンケート結果
 (右) 広報いずのくに 1月15日号 アンケート結果



回答数：96通 回答数：187通



現在市では、『広報』1日号(主に自治会を通じて配布)と15日号(主に新聞折り込みで配布)の月二回広報紙を発行し、皆さんに市の大事なお知らせをお伝えしています。

しかし、『新聞をとっていないため15日号が届かない』『新聞折込はチラシと一緒に気がつかない』などのご意見が寄せられていました。

『広報いずのくに』発行形式が変わります!

五月十五日号を最終号とし「お知らせ版」を廃止

アンケートの実施と結果

そこで、広報1月15日号と2月1日号にハガキを差し込み、全読者対象のアンケートを実施しました。計二百八十三通の貴重なご意見をいただき、集計の結果は左上のグラフのとおりでした。

十五日号の廃止と一日号配布強化

『広報いずのくに』は、より多くの皆さんに市の大事なお知らせを伝えなくてはならない一方、市の財政状況からも無駄のない、最も効果的な配布方法を考えなくてはなりません。新聞を購読する世帯が全国的な減少傾向にある現在(社団法人日本新聞協会調べ)、『新聞折込』という配布方法を見直さなくてはならない時期にきています。

十五日号のアンケートで、Q6・一日号の自治会経由の配布について、現在と同じ配布方法でよいは七割以上を占めました。このことから、多くの十五日号読者の皆さんにも、一日号を読んでいるにたいていいることが分かりました。そして、双方のアンケートとも過半数の皆さんが、「月一回発行して内容を充実」した『広報いずのくに』の発行を求めていることが分かりました。

伊豆の国市誕生以来、月二回『広報いずのくに』を発行してきたのは、「合併による行政区域の広がりや情報不足による市民の皆さんの混乱を避けるため、『新聞折込』で素早く情報を伝えていこう」という考え方によるものでした。しかし、合併から三年が経ち、皆さんに伝える情報も整理されてきた今、『新聞折

『広報いずのくに』のここが変わります。

- 15日号を廃止、月1回に**
15日号(お知らせ版)は、次の5月15日号で最終号とし、発行は月1回、1日号(冊子版)のみに統一します。
- 自治会や施設のラック置きで配布**
新聞折込による配布をやめ、自治会経由や市内各施設のラック置き等で広く配布します。
- 15日号の情報もそのまま継続**
新しく統一された1日号(冊子版)には、現在15日号に掲載している『月のカレンダー』もはさみ込み、取り出して使える形式にします。(6月1日号から)
- 広報がパワーアップします**
新しい1日号(冊子版)では、市民の皆さんに、よりわかりやすく市の情報をお伝えしていくため、特集記事などの企画を盛り込んで、紙面を充実させていきます。

めもと湯の館無料利用券

市内在住の70歳以上の人に『めもと湯の館無料利用券』をめもと湯の館で発行します。
持ち物 身分を証明できるもの(健康保険証、運転免許証など)
内容 年12回分の無料利用券
営業時間 10:00 ~ 19:30 *木曜休館
問合せ めもと湯の館 電話 055 949 3737



出席者は卒業生の発表に聞き入りました

六十年の歴史を刻んだ分校にお別れ

田中山分校閉校式

三月二十三日に大仁小学校田中山分校で、閉校式を開催しました。

第一部は教育委員会が主催し、佐藤教育長が田中山分校閉校に至る経過を報告した後、市長や議長、田中山区長

があいさつしました。市長は「歴史の積み重ねを無にすることなく、未来につなげていきます」と話しました。

最後の卒業生となった五人が、これまでに卒業した五百十人を代表して、児童の言葉を発表しました。一人ひとり分校での思い出を述べた後、「分校で学んだことを忘れず、分校が教えてくれたことを胸に、卒業生であることを誇りにして、歩んでいきます」と五人で声を合わせました。

第二部は地元住民による実行委員会が主催し、元教員や卒業生の体験発表、浅草・雷一門のパフォーマンスなどで会場を盛り上げました。

【訂正とお詫び】

広報4月1日号22ページに掲載した『狂犬病予防集合注射』記事の日程表の最終日に誤りがありました。正しくは『4月19日(土)』です。訂正し、お詫びいたします。
問合せ 市役所環境政策課 電話 055 949 6804